

TPN剤（パスポートフロアブル），チオファネートメチル剤（トップジンM水和剤），シプロジニル剤（ユニックス顆粒水和剤47）によるリンゴ褐斑病の防除体系

園芸試験場

1 取り上げた理由

県内で最も問題となっているリンゴ褐斑病に対して効果の高い薬剤を用いた防除体系を検討した結果、ボルドー体系並の高い防除効果が認められたので、参考資料とする。

2 参考資料

1) 褐斑病の発生が多くなる7月中旬以降に展着剤パンガードKS-20を加用した，TPNフロアブル（パスポートフロアブル）→チオファネートメチル水和剤（トップジンM水和剤）→シプロジニル剤（ユニックス顆粒水和剤47）の散布体系で，褐斑病に対してボルドー体系並の防除効果が得られる。

2) 具体的な散布体系

（褐斑病に強い防除体系）

4月～7月：慣行防除（非ボルドー体系）

7月10日頃：パスポートフロアブルの1,000倍液を散布する。

7月25日頃：慣行剤

8月10日頃：トップジンM水和剤の1,500倍液を他の保護殺菌剤に混用して散布する。

8月20日頃：慣行剤

9月5日頃：ユニックス顆粒水和剤47の2,000倍液を散布する。

9月20日頃：慣行剤

3 利活用の留意点

- 1) TPNフロアブルは，使用時期が収穫45日前までなので，早生種に散布する場合は使用時期に注意する。
- 2) ユニックス顆粒水和剤は，炭疽病に効果がほとんど無いので，炭疽病の発生が多い場合はこれに炭疽病に効果のある薬剤を混用して散布する。
- 3) 褐斑病の発生が少なく推移した場合は，耐性菌の出現を防ぐため，トップジンM水和剤の散布を省略する。
- 4) 散布回数削減をねらって散布間隔を慣行よりも延長する場合は，必ず展着剤のパンガードKS-20を1,000倍で加用する。

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

環境に優しい果樹減農薬防除技術の確立 平成9～10年

新農薬による病害虫防除法 平成7～10年

2) 参考データ

表－1 褐斑病の発病葉率と落葉率の推移（「ふじ」）

区制\調査日	7/27	8/20	9/18	10/7	11/2
褐斑病に効果の高い体系	0 0	1.7 0.3	11.8 3.3	33.7 7.1	— 43.3
非ホルト [®] 体系	0.4 0	31.6 20.6	64.9 26.1	92.2 59.8	— 99.5
ホルト [®] 体系	1.4 0.4	2.4 0.4	10.3 3.4	40.1 14.2	— 49.0

各区とも上段の数値は発病葉率(%), 下段の数値は落葉率(%)

表－2 果実の発病果率（「ふじ」：）

区制	褐斑病（果実病斑）	
	調査果数	発病果率
褐斑病に効果の高い体系	134	0
非ホルト [®] 体系	200	5.5
ホルト [®] 体系	180	1.7
無散布	161	21.7

表中の非ホルト[®]体系, ホルト[®]体系ともに平成10年度宮城県防除基準どおりに各々の体系で散布した区である。

※薬剤費（7月中旬以降の殺菌剤のみの薬剤費）

褐斑病に効果の高い体系 注1) ¥15,000程度

非ホルト[®]体系 注2) ¥13,000程度

注1) ハ[®]サポートフロアブル(1,000倍), ベ[®]フラン液剤(1,500倍), ホ[®]リキャ[®]タン水和剤(1,000倍)+トップ[®]ジンM水和剤(1,500倍)オキシラン水和剤(500倍), エニックス顆粒水和剤47(2,000倍), ロブ[®]キャ[®]タン水和剤(600倍)を10a当たり500・散布したときの薬剤費。

注2) ベ[®]フラン液剤(1,500倍), キノト[®]フロアブル(800倍), オキシラン水和剤(500倍), ホ[®]リキャ[®]タン水和剤(1,000倍), アリエッティC水和剤(800倍), アリエッティC水和剤(800倍)を10a当たり500・散布したときの薬剤費。

3) 発表論文等

なし